



慶應義塾大学ビジネス・スクール

特定非営利活動法人「まごころ」¹

私たち慶應ビジネススクールNPO研究チームは、北関東S県Y市で活動する「まごころ」を訪ねるべく私鉄Y市駅におりたつた。改札口まで出迎えに来てくれた「まごころ」の北山事務局長とともに駅前商店街を抜けて事務所に向かう。北山さんの説明によると、この商店街もかつては市の中心地にあつて繁盛していたが、郊外に大型ショッピング・センターが出来てから衰退しつつあり、Y市が再開発重点プロジェクトの一つとして取り組んでいるとのこと。商店街の経営者二世が中心となって最近「いきいきYYプロジェクト」というのが発足し、NPOとして活動を進める動きになっているとか。

「まごころ」の事務所は商店街のなかほどで介護用品を販売する店の2階にあつた。介護用品店の倉庫の一角を仕切つた約50平米のスペースに3つのデスク、キャビネット、メンバーの活動を示す予定表のホワイト・ボードなど、それに10人程度が座れる会議用のテーブルもある。そこで北山さんと一緒に働く二人のスタッフ、高野さんと向井さんを紹介される。

早速私たちは北山さんから「まごころ」の概要や活動内容などを聞くことにした。以下は北山さんの話の主な内容である。

「私たちの歴史を少しお話ししますと、1994年の10月にY市のコミュニティー・センターでボランティア講習会が開かれたんですが、その時一緒に受講して居てたまたま何時も

¹ 本ケースは、オハイオ州立大学経営学部国際ビジネス研究センター エグゼクティブ・イン・レジデンス兼特別研究員である網野俊賢によって作成された。「まごころ」は実在する組織ではなく、いくつかのNPO法人の実態を基に、仮想の団体として記述してある。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ケースの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523神奈川県横浜市港北区日吉本町2丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp）。また、ケースの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送は、これを禁ずる。